

独立法人化以後の大学は、PRに躍起となっているようです。そのようなPRの一環として、Kyoto UniversityをMANGAで全世界に紹介する冊子^{1,2,3,4)}があります。その中に、吉田寮を見つけました。そこで、うれしがる私は紹介することにしました(注1)。マンガの最後には、「この物語はフィクションです」とあります。ところが、私には、この1コマ目と5コマ目(第1図)は、あながちフィクションではないように思われます。

私は、これまでに、寮生の諸氏から大きな教育的な効果を受けました。具体的には、それぞれの寮生の興味のある事柄やら寮生の専門の勉強やらを教えてもらったり、また、ときには、ともに考えたりもしました。たとえば、私は、大学院博士課程に在籍しているのですが、先日、生態学の論文執筆のために数学の行列に関する論文を理解する必要がありました。私は、数学とかさっぱりだったので理学部の人に、その論文を解説してもらいました(注2,3)。いまはやりの「学際〇〇プロジェクト」というずっと前から、寮においては、日常的に学際的なやり取りがあります。

また、勉強だけではありません。昔、教育学部の講義で「遊びをするには、3つの間(時間・空間・仲間)が必要です」と、聞きました。寮には、それらの全てがあります。だから、楽しいのはあたりまえです。私は、寮生と共に、さんざん呑んだり食べたり遊んだりしてきました。

また、吉田寮には、留学生も多くいます。そもそも、この留学生/非留学生という区分自体、違和感があるほど、なじんでしまっている人もいます。あまりになじんでいるがゆえに、この冊子の中のいくつかの文章が、留学生の手によるものがあるとは思えない受験生もいることと思います。私は、留学生から彼ら/彼女らの故郷や母語のことを教わるとともに、日本のことや日本語を教えたりしました。いまはやりの「国際交流〇〇プロジェクト」という10年も前から、寮においては、日常的に国際的なやり取りがあります(注4)。入寮当初、私は相部屋に戸惑いましたが(そして、入寮を検討されている読者にとって二の足を踏む要因のひとつかもしれない)、振り返ると相部屋にはこのようなすばらしい効果があったといえます。

では、なぜ吉田寮の仕方は、その効果にもかかわらず、評価が低いのでしょうか？私が考えるに、寮生は、寮でごろごろしたり、遊んだりしている方が楽しいので、おそらく、吉田寮のやりかたの妥当性をわざわざ主張しないのだらうと思います。しかし、私は、もう少し高く評価されてもよいのではないかな、と思います。

大学当局は、全世界に向けた広報資料にわざわざ吉田寮を書き記すくらいだから、寮の教育的効果を認めてくれているのであろうと思います。ところが、その一方で、当局代表の先生の中には、新棟(注5)建設に関する折衝の場において、「寮生がいうところの、寮の大事な点は、ひとことでいうとなんだね？」という、意地の悪い問いをし、寮生を困らせる先生もいます(〇_〇)。なぜ、意地の悪い問いかという、この問いには、一つには、寮生にはそれだけ与えて残りは奪ってしまおう!!という、意図があるように思われることが挙げられます。そして、もう一つには、寮の大事な点やよさをひとことで述べるのは困難だからです。寮の大事な点やよさは、たったひとこと、あるいは、A4一枚程度で、書くには、到底おさまりません(〇_〇)。上述の私の経験も長い年月の、ほんの一例に過ぎません。

まあ、いいことばかりでもありませんが、足したら絶対にプラスです。

受験生の皆さん!!

吉田寮へ入寮してみてください。遊びにくるだけでもいいです。百聞は一見にしかずです。

吉田寮は、年中開いています (〇〇)。 (注6,7)



第1図 散歩中に雑談する教官と学生 1)

脚注

注 1) 筆者は、京都大学は当該 MANGA が吉田寮の良さを示す資料として入寮パンフに書かれたからといって、さっそく削除するような狭量な大学ではないと思っています。

注 2) 彼は、水割りに凝っているので、お礼にウイスキー(1920ml)と炭酸水(10本)を進呈しました。

注 3) 過去には『吉田寮体育会数学部』なる数学の勉強会があって、某大手予備校に対抗して、京大入試解答速報を作成していました。また、試験期間前には、公共スペースにおいて勉強を教える光景が見られます。

注 4) 吉田寮の現状が完璧だというつもりはありません。しかし、当局がこれまでに建設した留学生宿舍の伝え聞く現状よりも、よほど、良好なようです。

注 5) 新棟とは、今後寮に近接して建設されるかもしれない新たな建物のことです。

注 6) 扉が閉まらないわけではありませんが、いつも開け放たれています。

注 7) 入寮選考期間は春期と秋期の年 2 回のみです。ご注意ください。

参考文献

- 1) MANGA Kyoto University 「6. 散歩日和」
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/66065/4/165-194.pdf>
- 2) MANGA Kyoto University (Chinese ver.) “6. 散歩日和”
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/91242/2/165-194.pdf>
- 3) MANGA Kyoto University (English ver.) “6. A Nice Day for a Walk”
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/91241/2/165-194.pdf>
- 4) MANGA Kyoto University (Korean ver.) “6. 산책하기 좋은 날.”
<http://repository.kulib.kyoto-u.ac.jp/dspace/bitstream/2433/91243/2/165-194.pdf>